

第 3 節 広報課

〔総括概要〕

広報課の主な分掌事務は、広報業務、広聴業務、シティプロモーション業務及びマスコットキャラクター活用業務である。

広報業務については、市民への市政情報の提供及び市外に向けての情報発信を目的として、広報紙の発行、公式ホームページ等への掲載、報道機関への情報提供等、積極的な広報活動を展開した。

広報紙については、紙面の充実を図りながら、毎月 1 回発行した。また、ホームページの内容の充実をはかるとともに、SNS を活用した広報活動として、公式 X (旧 Twitter)、公式 Facebook 及び公式 LINE による広報を行った。更に、栃木市コミュニティ FM「FM くらら 857」を活用し、身近な地域情報や災害・防災情報の配信を行った。

広聴業務については、それぞれの地域ごとのニーズや意見等を市の施策に活かすとともに、本市の進めるまちづくりについて理解を深めてもらうことを目的として、まちづくり懇談会ふれあいトークを開催した。

令和 7 年度は、懇談会参加者と市が抱える特定の課題を共有し、いただいたご意見等を市政の参考とすることを目的に、テーマトークを導入し、「女性も活躍する地域について」をテーマに実施した。

また、「経営者と市長との意見交換会」及び「若者世代と市長との意見交換会」を実施し、市が抱える課題の洗い出しや認識の共有を図った。

シティプロモーション業務については、平成 28 年度に作成した栃木市シティプロモーション計画「Tochigi City Promotion Design」の第 3 期行動計画「Tochigi City Promotion Creation 3rd」に伴うシティプロモーションアンケートを実施した。また、市民によるシティプロモーションを推進するため、本市の魅力的な「自然」「歴史」「食」等の様々な写真を Instagram で募集する「栃木市フォトフェス 2025」を実施し、宇都宮大学地域プロジェクト演習を活用し啓発を行った。

マスコットキャラクター活用業務については、平成 26 年 4 月 5 日に誕生した栃木市マスコットキャラクター「とち介」の 11 周年を祝い開催した「とち介マルシェ 2025」ほか、広くとち介を PR することで、市民の一体感の醸成や本市の知名度の向上に努めた。また、とち介の派遣業務やデザイン申請の受付及び承認のほか、とち介を活用した主催事業を行い、積極的に本市の情報発信に努めた。

広報広聴係

1 広報業務

(1) 広報紙等による広報

市政全般について掲載した広報紙を、特集記事の構成を工夫するなど内容の充実を図りながら毎月発行し、市政の PR に努めた。

ア 広報とちぎ

- ・発行回数 定期12回（毎月1回）
- ・発行部数 52,500部
- ・仕様 A4判（4色フルカラー・32頁）

イ 広報とちぎ点字版

- ・発行回数 定期6回（2か月に1回）
- ・発行部数 24部
- ・仕様 B5判点字用紙（約30ページ）

ウ 声の広報とちぎ

朗読ボランティア「あかり」の協力を得て発行

- ・発行回数 定期12回（毎月1回）
- ・仕様 CD・SDカード・カセットに音声収録

(2) ホームページによる広報

市政情報やイベント、観光案内、生活ガイドや災害情報等の内容の充実化と積極的な市内外への発信を行った。

- ・アクセス件数（ページビュー数）6,892,322件

(3) SNSを活用した広報

SNSによる広報を行うことで、多様な媒体を通じての情報発信強化に努めた。

- ・投稿内容 行政情報、観光情報、災害情報等
- ・投稿数 Facebook 382件 X（旧Twitter） 1,053件 LINE 208件

(4) テレビ・ラジオ等による広報

ア CATVコミュニティチャンネル

広報とちぎの内容や市政情報等について、ケーブルテレビ(株)に番組制作を委託し、同社のコミュニティチャンネル（デジタル111チャンネル）で放送した。

- ・Report Tochigi

職員による市政情報発信番組として、イベント情報や市政情報の発信を行った。併せて、市の施設の紹介も実施した。

5分番組で、月毎にテーマを変えて放送した。（1日3回程度放送）

- ・生活文字情報

文字情報を全画面で表示する3分番組として、1日6回、毎日放送した。

- ・エリア便

イベント等の告知情報で、毎週月～木曜日に約1分間放送した。

- ・新春特別番組「新年のご挨拶／テレビ年賀状」

市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

15分番組で、1月1日（木）～4日（日）に放送した。

イ とちぎテレビ

市政のPRを行うため、(株)とちぎテレビに番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・新春特別番組「2026年 わが街発！」

30分番組のうち10分間で、1月1日（木）、3日（土）に放送した。

ウ 栃木放送（ＣＲＴ）

市政のＰＲを行うため、(株)栃木放送に番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・新春特別番組「新しい年を迎えて 栃木市長に聞く」

10分番組で、1月1日（木）、3日（土）に放送した。

エ エフエム栃木

市政のＰＲを行うため、(株)エフエム栃木に番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・オールとちぎ首長新春挨拶ＣＭ

60秒ＣＭで、1月1日（木）～15日（木）の間に10回放送した。

(5) コミュニティＦＭ

栃木市コミュニティＦＭ「ＦＭくらら857」を活用し、災害情報・防災情報の配信や、身近な地域情報を発信することで、市民が豊かで安心して暮らせるまちづくりの推進を図った。

ア 市の広報番組

- ・「とち介Ｐ（プロデュース）のＨＡＰＰＹ ＴＯＷＮ」平日の11時～11時55分各課からのお知らせなどを放送した。
- ・インフォマーシャル 市からのお知らせを生放送で、毎日4回放送した。
- ・ＣＭ 市からのお知らせを録音し、毎日6回放送した。

イ 災害放送

- ・災害発生時に備えるため、毎週木曜日11時に緊急割込み放送の試験放送を行った。

(6) 報道機関等への情報提供

ア 記者会見

- ・定例記者会見 毎月1回
- ・予算記者会見 年1回
- ・臨時記者会見 随時(令和7年度0回)

イ 市政情報の提供（メール・ＦＡＸにより随時）

- ・情報提供件数 480件

(7) 広報活動推進員による活動

各課で1名広報活動推進員（庶務担当係長）を選任し、広報活動の円滑な事務を行うための広報活動推進員研修会を実施した。

- ・日時 7月4日（金）（参加者70名）
- ・演題 「伝わるプレスリリースとは」
- ・講師 下野新聞社 栃木支局長 佐野 恵 氏

2 広聴業務

(1) まちづくり懇談会ふれあいトーク

市長をはじめとする市執行部が、市民の市政に対する意見、提案等を直接聴くことにより、課題等を共有し、市政に反映することを目的に実施した。

また、市の重要施策を市長等から直接市民に説明することにより、事業の周知を図った。

さらに、「女性も活躍する地域について」をテーマに、20歳から39歳の女性の提出する割合が高い市の課題について、参加者と意見交換を行った。

ア 懇談会

・栃木地域

実施日	出席者（人）	会場
7月15日（火）	78	国府公民館
7月18日（金）	109	寺尾公民館
7月24日（木）	76	皆川公民館
7月30日（水）	73	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 （市民交流センター）
8月1日（金）	57	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 （市民交流センター）
8月6日（水）	67	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 （市民交流センター）

・大平地域

実施日	出席者（人）	会場
6月27日（金）	69	大平健康福祉センター
7月1日（火）	55	大平健康福祉センター

・藤岡地域

実施日	出席者（人）	会場
6月24日（火）	60	藤岡文化会館

・都賀地域

実施日	出席者（人）	会場
7月9日（水）	110	都賀公民館

・西方地域

実施日	出席者（人）	会場
7月4日（金）	68	北部健康福祉センター

・岩舟地域

実施日	出席者（人）	会場
6月20日（金）	94	CITY GYM & SPA 遊楽々館 （岩舟健康福祉センター）

(2) 経営者と市長との意見交換会

ふれあいトークのテーマトークにて、女性の働き方に関する意見が多数寄せられたことから、「女性が働きたい職場」について、（若手・女性）経営者と意見交換を行い、「女性活躍社会」の議論を深めるとともに、各施策やまちづくりに活かすことを目的として実施した。

実施日	出席者（人）	会場
10月 8日（水）	14	栃木市役所 本庁舎

(3) 若者世代と市長との意見交換会

ふれあいトークのテーマトークと同じく「女性も活躍する地域について」をテーマに若者と意見交換を行い、若者の意見やニーズを把握するとともに、各施策やまちづくりに活かすことを目的として実施した。

実施日	出席者（人）	会場
11月15日（土）	11	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 （市民交流センター）

(4) 市政メール箱（電子メール）

インターネットを利用した広聴活動として、ホームページ内に電子メールによる投書窓口「市政メール箱」を設け、投書受付を実施した。

・件数 260件

(5) 投書箱

本庁及び各総合支所に投書箱を設置し、投書受付を実施した。

・件数 41件

(6) 郵送及びFAXによる市政に関する意見の受付

・件数 10件

(7) 来庁や電話による市政に関する意見の受付

・件数 16件

(8) パブリックコメント

重要な施策の策定過程において、市民の市政に対する意見や提案の機会を確保するとともに、政策決定過程への市民の参画を促進し、市民との協働によるまちづくりの推進を図るため、栃木市パブリックコメント手続条例に基づき、パブリックコメント（市民意見提出制度）を実施した。

・実施件数 17件

シティプロモーション係

1 シティプロモーション業務

(1) シティプロモーション事業

ア 栃木市シティプロモーション計画の第3期行動計画である「Tochigi City Promotion Creation 3rd」に伴う、シティプロモーションアンケートを実施した。

・対象 栃木県内市、関東主要都市、全国主要都市在住者

・件数 8,000件

・期間 10月2日（木）～11月4日（火）

イ 日常の中の栃木市の魅力をSNSを活用して発信する「栃木市フォトフェス2025」を実施した。

・実施期間 前期（春夏の画像）：5月1日（木）～9月30日（火）

後期（秋冬の画像）：10月1日（水）～2月28日（土）

・応募作品数 前期：221点（55人）

後期：209点（34人）

ウ 栃木市の農産物のブランドイメージをより強固にするとともに、農産物をきっかけに栃木市の魅力を発信する場として、シティプロモーションイベント「いちご市（いち）～栃木市産いちご直売会～」を開催した。

・開催日 3月25日（水）

・開催場所 （一財）地域活性化センター 日本橋イベントスペース

・協力 農業振興課、地域政策課、蔵の街課、渡良瀬遊水地課、観光振興課、栃木市観光協会、下野農業協同組合

・参加者 500人

エ 宇都宮大学地域プロジェクト演習を活用した情報発信

・フォトフェスを周知するため、市内イベントでの広報活動を実施した。

・栃木市魅力発信特使の田村律之助顕彰会と連携した二条大麦のPRのためのワークショップを開催した。

（2）栃木市ふるさと大使

ア 本市の魅力を広く効果的に情報発信することにより、本市の知名度及びイメージの向上を図るとともに市民の一体感及び郷土愛を醸成することを目的とした「栃木市ふるさと大使」制度を設け、全国的に活躍する本市ゆかりの方に委嘱している。

・栃木市ふるさと大使 30名（28名、2団体）（委嘱順）

氏名	プロフィール	氏名	プロフィール
春風亭柳橋	落語家	間中 利美	モンキーエンターテイメント代表
栃木シティ FC	プロサッカークラブ	武井 択也	元プロサッカー選手
吉川 真	宇宙航空研究開発機構（JAXA）准教授	茂手木 章	中華料理人
山田 昌彦	元富士通スーパーコンピュータ「京」プロジェクト責任者	桂小南	落語家
澤村 拓一	元プロ野球選手	雲田 はるこ	漫画家
寺内 崇幸	元プロ野球選手	蜂須賀 孝治	元プロサッカー選手
富田 晋伍	元プロサッカー選手	八津 弘幸	脚本家
山田 五郎	評論家	富山 貴光	元プロサッカー選手
渡辺 俊介	元プロ野球選手	上原 チョー	お笑い芸人
石川 恋	俳優、モデル	大谷 桃子	車いすテニス選手
冬木 れい	料理研究家	小林 美貴	ショコラティエール
菊池 優	フリーアナウンサー	植野 広生	元「danchu」編集長
MAGIC OF LiFE	ロックバンド	黒川 伊保子	人工知能研究者、随筆家
古川 登志夫	声優	古今亭志ん丸	落語家

赤荻 一也	ピザ職人	平山 花羽	演歌歌手
-------	------	-------	------

イ 栃木市ふるさと大使の活動を広く周知するため、広報とちぎ令和8年4月号にインタビュー記事を掲載した。（吉川真氏）

(3) 栃木市魅力発信特使

ア 令和2年度より「栃木市魅力発信特使」制度を設け、本市の明るい未来を築いていこうという志を持って、それぞれの分野で市内を中心に活躍し、本市の魅力を積極的に発信している個人及び団体等を認定している。

・栃木市魅力発信特使 17名（16名、1団体）（認定順）

氏名	プロフィール	氏名	プロフィール
伊吹 和矢	歌手	平泉 由実	デザイナー
神戸 明	地域コーディネーター	坂本 絵津子	シンガーソングライター
倉持 雅代	パーソナルトレーナー	高橋 由起	フルート奏者
田村 愛	ラジオパーソナリティ	遠藤 翼	蔵の街遊覧船最年少船頭
山田 かかし	タレント	遠藤 百合子	NPO 法人事務局員
小林 美香	ぶどう園三代目	田村律之助 顕彰会	ビール麦栽培を広めた田村律之助の顕彰団体
佐沼 理衣	動画クリエイター	アラタケンジ	カメラマン
桜祐	声優、イラストレーター	角田 恵美	フリーアナウンサー
落合 義人	柔道整復師		

イ 魅力発信特使に「栃木市フォトフェス2025」の審査を依頼し、各賞を決定した。（審査委員長：アラタケンジ氏、審査委員：神戸明氏）

2 マスコットキャラクター活用業務

(1) とち介派遣事業

栃木市マスコットキャラクター「とち介」を市主催のイベントや学校行事、キャラクターイベント等に派遣し、とち介及び栃木市のPRと共に市民の一体感の醸成に努めた。

・派遣回数 118回（市内104回、市外14回）月平均 約9.8回

(2) デザイン申請・承認手続

とち介のデザインを用いた商品等の、デザイン使用申請の受付及び承認（更新申請も含む）を行った。

・承認件数 178件（販売品77件、非売品101件）

・商品 タオル、缶バッジ、クリアファイル、Tシャツ、エコバック等

(3) とち介公式SNSによる情報発信

各SNSの特徴や、ターゲット層等に着目し、それぞれ使い分けながら、本市の情報等を継続的に発信した。

ア とち介目線のゆるやかな言葉で、本市の情報等を継続的に発信した。

・X（旧Twitter） フォロワー数 14,408人

・Instagram フォロワー数 5,923人

イ スタッフ目線で、より詳細な情報を継続的に発信した。

- ・Facebook フォロワー数 2,290人

(4) とち介主催事業

とち介を活用し、本市の魅力を積極的に発信するため、各主催事業を実施した。

ア とち介マルシェ2025

- ・開催日 4月12日（土）
- ・開催場所 栃木市立美術館・文学館ひろば
- ・参加者 700人

イ とち介のクリスマス会2025

- ・開催日 12月25日（木）
- ・開催場所 市役所1階市民スペース
- ・参加者 50人

ウ とち介謹賀新年グリーティング2026

- ・開催日 1月6日（火）
- ・開催場所 大神神社
- ・参加者 30人

(5) マスコットキャラクター応援基金

マスコットキャラクター活用推進の財源確保のため、栃木市ふるさと応援寄附（ふるさと納税）の「マスコットキャラクター活動支援事業」コースにて寄附を募った。

- ・受入件数 253件
- ・受入額 6,515,000円

(6) とち介商標権存続期間更新登録

特許庁へマスコットキャラクター商標権登録の更新を行った。

- ・更新登録日 6月26日（木）
- ・期間 10年（令和17年6月26日まで）
- ・分類 第14類、第24類、第25類、第30類、第31類